

吉野ヶ里町立東脊振小学校

学校教育目標

校長室だより 夢に向かって輝く児童の育成

児童数 360名 No.91

令和4年1月21日 文責 校長 林 寛 ポカもん



新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。佐賀県内でも200人以上の感染が連続して報告され、まん延防止措置が実施されることになりそうです。本校でも今週、2年生の2クラスについて学級閉鎖をし登校を見合わせてもらうことを各家庭に協力していただいています。

全国的に感染の広がりが見られる中、佐賀県、吉野ヶ里町に住んだり勤めたりしている我々にできることは何かを考え、協力して取り組んでいくことが大切だと考えています。感染症の予防は、自分が感染しないためだけでなく、自分の大切な人たちが感染しないためでもあります。受験シーズンもスタートして、家族の中に高校や大学等の入試に向かって頑張っている人がいる家庭も少なくないでしょう。お年寄りや医療従事者と同居されているところもあります。

また、感染への不安や偏見や差別によるいじめ等により、悲しみや苦しみを更に抱え込むことがあっては絶対になりません。お互いを思いやり励まし合えるような学校や地域にしていくことと合わせて、町の教育委員会とも話し合い、今後もマスク着用や手あらいの励行、消毒、換気をし3密を避けながらの教育活動に努めていくことにしています。来週予定していた授業参観も中止しました。ご理解ください。

とうふ作り 3年生

3年生が、大豆を使ってとうふづくり体験をしました。3年の国語の教科書には「すがたを変える大豆」という説明文の教材があり、大豆が味噌だけでなく、豆腐や納豆、きな粉などの様々な食品に加工されていくことが書かれています。3年生の子供たちは教科書に書いてあったことを身をもって、学んだこととなります。今年もPTA会長の藤澤さんがGS（ゲストティーチャー）として指導してくださいました。大豆をゆでて細かくし、豆乳をしぼり、にがりを入れて混ぜたあとに出来上がったとうふは、子供たちに大好評でした。



学校給食週間について

1/24～1/30は「全国学校給食週間」です。日本での学校給食は、明治22年に山形県鶴岡町の小学校で始まりました。その後、全国に広まり実施されるようになりましたが、戦争による食料不足により中止せざるを得なくなりました。戦争が終わり、昭和21年12月24日に東京、神奈川、千葉の3都県の学校で試験給食が実施されました。それ以来、12/24を学校給食感謝の日と定めていましたが、冬休みと重なることもあり、1/24～1/30までの1週間が「全国学校給食週間」となりました。東脊振小学校でも給食週間前ですが、給食委員会の子供たちが、給食に関する話題を放送したり、クイズを出したりしてくれています。1/19（水）には、給食集会のビデオを各教室で見ました。町の栄養士の先生の話も実施しています。



※引き続き、毎朝の登校前の健康観察と検温もお願いします（本人や同居家族にかぜ症状がある時は登校させない）。

本人以外の家族の感染が明らかになったり、検査を受けるようになったりしたときにも学校に連絡してください。